

# 流域治水シンポジウム「アンケート」の集計結果

(回答数 53)

問1. 水害を体験したことがありますか。	問2. いつごろ、どこで体験しましたか。	問3. そのときの様子、行動を教えてください。
ある	平成6年8月頃、旧びわ町落合高時姉川地先の落合橋近く	姉川、高時川合流点の為、堤内地の氾濫により、河川水位3m以上になり、堤外民地自宅裏堤防尻より湧水が発生。倉庫が床下浸水した。
ある	昭和36年頃、高時川〇〇橋(マンクート)が流される。	仮設の橋を恐々渡った頃を鮮明に覚えている。
ある	昭和37年9月頃、日野町	床下浸水であったが、便所は汲み取り方式であり、不潔だったが、水が引いた後、掃除を充分した。
ある	甲賀市甲南町深川地先、杣川の北側の街通りで昭和30年代から40年代まで度々ありました。	床下浸水程度でしたが、前の歩道や側溝水路からあふれた水でした。畳をあげましたがなんとか助かりました。昭和35年5月25日でしたか？石巻に出張中、チリ地震の津波に遭遇しました。
ある	多羅尾災害、信楽町牧、雲井橋	家(自宅)の石積みまで水位が上昇、水位上昇を見守る
ある	昭和25年前後、ジーン台風、長浜米川	床下浸水。隣の八百屋より果物が流れ、拾い集めて届けた覚えが小学時低学年の頃の思い出。
ある	昭和24年の6月か9月ごろ、多賀町四手川の氾濫時。	町道が水路になった。上流からの水に追われた。
ある	旧安土町常楽寺地先において、盆川の増水により床下浸水の対応をした。	土のうで家屋の入り口に積んだ。畳をめくり、家具等を移動した。
ある	昭和28年9月ごろ、昭和50年9月ごろ、大戸川流域で	自分の家は高台にあるので、家の被災は無かったが、大戸川の堤防が部分的に決壊し、低地にある家が床上浸水し、その家の家財道具を高い道路に運び上げた。
ある	昭和60年頃、堺市、水路があふれた。	うちの家が低地で、床下浸水、とりあえず2階へ。
ある	1990年6月か9月頃、宮崎県日向市で	気がいたら庭が見えないくらいの雨がふっており、玄関のドアをあけた瞬間、家の中に水が入ってきました。(当時17才です)少し高い所にある近所の人と協力してたたみをあげ、家財は増築した別棟に運びました。(そこに逃げました)
ある	昭和34年伊勢湾台風を三重県北牟婁郡海山町相賀(当時)で、この時期にたてつけに台風襲来により、何度か自宅が被災に見舞われた。当時、7才であった。	消防車が迎えにくる中で、町の当時堅固な建物の寺に避難した。避難所で川が切れた。〇〇地区が流されたとき小供の耳にも入り、寺がミシミシ音をたてる恐怖を体験。避難から帰ると、自宅は床上浸水で、屋根等がとばされており、ひどい状況であった。(一度だけではない。)子供ではあるが、たたみをあげたり、雨戸を金植で補強したことを覚えている。
ある		
ある		
ある		
ない(35)無回答(3)		

問 その他、シンポジウムへのご意見・ご感想を聞かせてください。
<p>■ 自主防災を組織して、災害避難等訓練しているが、片田先生の講演は今後の訓練について考え直す事が大変勉強になりました。</p> <p>■ 防災教育に限定することなく、教育全体への提言(主体性・信頼関係等)をいただいた片田先生のお話でした。</p> <p>■ 片田先生の講演に感動した。</p> <p>■ 空振りであった情報でもよかったという住民が思うこと、心を育むことが正確な情報を伝える事となった大切さ</p> <p>■ 片田敏孝先生の話はまさに実体験にもとづくお話は、大変有意義であり、篤い語りに感動しました。ありがとうございました。</p> <p>滋賀県や近畿の過去の豪雨、災害事例をこのシンポジウムを通してレビューすることが大切です。滋賀の場合は先ずはM29年9月の10日で1000mm(1日で600mm)の彦根の観測所の観測データを「見える化」することが最優先。今となっては十津川大水害の雨の情報発信等を継続的に和歌山でやっておけば、今回の何人かの死亡者は助かっていたはず。「7世代前まで過去を振りかえる必要性」</p> <p>■ 宮崎は雨が多く、海の近くでもありましたので、災害についての心づもりが多少なりともあるつもりでいますが、滋賀に暮らしているとそのことを忘れてしまいそうです。今日は、日頃から考え、備えることが大事だということを改めて感じました。</p>

<p>■知事も職員のみなさんも、議会で継続となったのに前向きですばらしいと思います。</p>
<p>■片田先生のお話大変参考になりました。これからの子供教育に生かして頂きたいものです。</p>
<p>■流域でのシンポジウム、各地域へ踏み込んで、市や各自治会との話し合いの場を多く持っていただきたい。片田先生の話はよくわかり、よかった。</p>
<p>■大阪に住んでいますが、滋賀県の治水政策に下流住民として心配をいたしております。もっとハードとソフトのバランスある治水政策の推進をして下さい。</p>
<p>■毎年大津で開催されるのですが、たまには湖北や湖西でもやってください。それによって同じ人の参加リスクを下げ、新たな参加者が出てくるのではないのでしょうか。</p>
<p>■片田先生の大切な話が聞けて良かったです。パネルディスカッションも有意義な点が多かったと思います。</p>
<p>■流域治水の考え方は以前から国を始めとして県内の市町でも大なり小なり取り組んでおり、考え方は浸透していると思う。ただ、滋賀県の場合、「ながす」部分の計画が脆弱過ぎるのではないかと不安になる。天井川の治水安全度が1/20程度しかなく、河川整備計画においても浚渫で1/30に戻す程度の「ながす」対策では正直安心できない。このことを知らない住民が大部分である。もっと河川毎の安全度を住民に説明してはどうか。川づくり会議や河川整備計画の説明会等だけでは不十分。</p>
<p>現実問題として、大災害発生時には国の高い技術やノウハウによる支援が住民としては大変魅力的に感じる。</p>
<p>コーディネーターの一人が当初と変更になっていた。楽しみにしていたのに残念である。</p>
<p>地先の安全度マップが問題なのは、制度が全く不明瞭なところである。</p>
<p>土地利用の制限や建築規制に関する条例は、河川部局だけではなく、都市計画・建設部局が先に市町と詳細を協議したほうが良い。</p>
<p>■特に、片田先生の講演は大変興味深く、また参考になりました。</p>
<p>■同じ人ばかりがこのシンポジウムに来ていると話があったが、もう少し、旬な話題でこのシンポジウムに参加したいという題材にしてはどうか？これで人が集まるかは分かりませんが。</p>
<p>■津波でんでんこの自らの命を守ることに責任を持ち、家族の信頼を平素から築くという真意、よく分かりました。リスクに備える大切さ、継続性、参考になりました。</p>
<p>■片田先生の話をお聞きたくて参加しました。なかなかこれだけ長時間しっかりと話を聴きできる機会はないので、期待しておりましたが、とてもいいお話でした。仕事柄避難制度計画、ハザードマップの弊害についてはいつも感じておりますので、災害対策基本法が今日のお話の課題を解決出来るように、改正される事を願っています。</p>
<p>■継続した防災教育の素晴らしさ、地域を巻き込んだ取り組みの重要性を深く感じました。子どもや教育者等々、当たり前となるような取り組みが進むよう、行動が出来るようにしたい。</p>
<p>■滋賀県では、これまで天井川の解消、砂防の建設など、生命を守る抜本的ハードをやってきたから現在がある。ハードの予算を減らすことが目的で流域治水ということはあり得ない。これまでのハードに追加した流域治水として欲しい。</p>
<p>■片田先生のお話はとても良かった。釜石の話、中学生が当たり前になってしまう。そんな防災教育を実践していきたい。災害発生47番目は「備える」には災いとは至言である。</p>
<p>■東日本大震災の片田先生の講話、また、12号台風で尽力された宇恵危機管理監の講話を聴くことができ、有意義だった。嘉田知事から地先の安全度マップの紹介があったが、もう少し滋賀の取り組みの紹介を聴きたかった。</p>
<p>■片田先生の実践に裏打ちされた講演は、来た甲斐があった。</p>
<p>■片田先生のお話は大変有意義でした。印象に残るキーワードは以下のとおり。「防災の真の敵は自分である」、「姿勢の防災教育」、「想定にとられ過ぎた防災」</p>
<p>■大変参考になった。特に子供達への教育についての取り組みを本県でも推進して欲しい。</p>
<p>■片田敏孝先生の貴重なお話を聞かせていただき大変勉強になった。・「避難三原則」について、なるほどと納得できた。・防災は「人を死なせないこと」であること・防災の教育は継続することで文化として継承していくこと</p>
<p>■時間のバランス：シンポジウムの課題に対し、津波防災についてのお話の時間が多すぎたように思いました。</p>
<p>■子供達に繰り返し教育を行うことの重要性を目の当たりにした思いです。</p>
<p>■「災害教育の大切さ」を実践に活かせるよう、他の人に伝えます。片田先生の講演、分かりやすくよく理解できました。住んでいる場所、住宅のリスクを確認しようと思います。「リスクの公表」大賛成です。</p>
<p>■とても勉強になるシンポジウムである。今後も継続してください。</p>
<p>■シンポジウムに参加するような意識の高い県民以外に対するPRの仕方、特に片田先生が講演された小・中学生への防災教育のあり方が重要であると認識された。</p>
<p>■片田先生の話はよく分かった。</p>
<p>■明瞭な防災教育の実践内容をうかがえてよかった。水害に強い地域づくり協議会の展開に期待しています。</p>
<p>■片田先生の講演、感動しました。県流域治水基本方針を踏まえた条例を望む。</p>
<p>■津波から小中学生が逃げられた話は大変良かった。</p>
<p>■パネルメンバーに住民の立場の人が居ない。もっと幅広いメンバーでないと、ディスカッション出来ない。ちょっと変ですね。</p>
<p>■片田先生の講演録は、是非県内の小中学校の先生にも配布して、研修会を行いながら活用できたらと考えました。</p>
<p>■片田さんのお話をたくさんの人に聞いてもらいたいものです。</p>
<p>■命を守る防災の講演が良かった。</p>
<p>■片田教授のお話は、災害に取り組む上での問題について、迫力あるものでした。感動しました。</p>
<p>■片田先生の熱意と説得力に感服しました。施設整備による安全性の向上と相反して人間の意識の脆弱性の問題は今度の大きな課題だと思います。</p>
<p>■非常に有意義な時間でした。ありがとうございました。ただ、片田先生の講演の中の「防災教育」というキーワードと繋がったパネルディスカッションを聞いてみたいと思いました。</p>